

平成22年4月8日発行

第7号

編集・発行：

練馬区立小中一貫教育校推進委員会

小中一貫教育校だより

このお知らせは、「練馬区立小中一貫教育校推進委員会」の協議内容等について、保護者や地域の皆様へお知らせするために発行しています。今回は、平成22年2月24日(水)に開催した第9回推進委員会の協議内容等および、3月13日(土)に開催した小中一貫教育校実施計画中間報告会（基調講演、中間のまとめ報告）についてお知らせします。

◆基調講演

演 題 「小中一貫教育の到達点とこれから」

講 師 廣嶋憲一郎 先生（聖徳大学教授・小中一貫教育資料作成委員会アドバイザー）

講演要旨

現行の義務教育制度は6・3制で行われているが、施行後60数年経過し、当時と現在の子供や社会状況を比べると、さまざまな面できわめて大きな変化が出ている。時代にマッチした教育をつくりだすには、小中一貫教育も含めて国民全体が日本の教育を考えるターニングポイントに来ている。小中一貫教育は、義務教育9年間の学びに段差をつけずに一体として連続させていく形をいうが、地域社会と連携した地域ぐるみの子育てにより、学校づくりを推進することも大きな特色である。



○接続・一貫の内容・方法

特に小学校4年生までは基礎的なものをきっちりと指導していく。小学校の先生は、自分の指導内容が児童が中学生になったときに授業のどこに位置付けていくのか、どこに発展していくのかをあまり意識していないのが現状である。小中学校の先生が合同で研修したり、指導方法の工夫をすることにより、お互いに課題がはっきり見えてきて、指導力が高まる。また、子供同士、あるいは子供と教師の交流では、中学校の部活動を小学校の第Ⅱ期にあたる子供たちと一緒にすることも可能である。その他に、リトルティーチャーという名称で、中学生が小学生に勉強を教える方法もある。

○これまでの小中一貫・連携教育の成果

高知県は、全県をあげて小中連携を取り入れ、学力面でかなりの成果が出た。都内の小中一貫教育校では「学校が生き生きしている」、「子供と先生の間関係が親密になった」などの報告がなされている。

○小中一貫教育校に期待する姿

- 1 先導的な学校教育の推進 —— その成果を全区に向けて、また全国に向けて発信するような学校を目指す。
- 2 子供が誇りとするような学校 —— 子供たちの学校自慢が愛校心につながる。
- 3 保護者や地域の方々への学校運営への参画や協力 —— 総合的な教育力を発揮できる。

◆練馬区立小中一貫教育校実施計画 中間のまとめ報告

平成21年度の推進委員会で検討した内容を「中間のまとめ」として以下のとおり報告しました。

〔小中一貫教育校の教育〕・・・小中一貫教育校では、義務教育の9年間を3期に分け、それぞれの段階におけるねらいや重点を明確にして指導します。小中一貫教育資料作成委員会では、4つの重視する事項（表現力の育成・心の教育の推進・体力の向上・キャリア教育の推進）について、9年間を見通して系統的に指導するための資料を作成します。

〔小中一貫教育校の学校経営体制等〕・・・学校経営を一元的に行うため、校長1人、副校長3人体制とします。また、大泉学園桜小学校、大泉学園桜中学校では、小中一貫教育校連絡会を開催し、4つの分科会（教務・生活・学習・庶務）を設けて検討しています。

〔小中一貫教育校の施設整備〕・・・小中学校が一体的に学校運営を行うために、推進委員会からの要望も踏まえて、改修工事の内容をまとめました。

〔小中一貫教育校への就学〕・・・平成22年度から通学区域制度および学校選択制度の特例を設けます。

〔小中一貫教育校の学校生活〕・・・標準服については、大泉学園桜小学校および大泉学園桜中学校内に検討委員会を設置し、検討しています。

〔小中一貫教育校に関するアンケート調査〕・・・実施計画を策定する際の参考とするため、小中一貫教育校に関するアンケート調査を実施しました。



中間のまとめは、教育委員会新しい学校づくり担当課にて配布しています。また、ホームページでもご覧になれます。

〈中間のまとめについての主な意見等〉

- カリキュラムは、前倒しで行うのか。
- 小中一貫教育校への期待は高い。この成果を練馬区全体に生かしてほしい。
- 単年度で小中一貫教育校を複数設置するのは困難だと思うが、他の学校でも小中一貫教育校を計画しているのか。
- 通学区域内の児童・生徒も原則として小中一貫教育校に通学することになると思うが、入学試験を行うのか。
- 小中一貫教育校は、いつから全区で実施するのか。
- 初等教育で複線化を図るのはいかなるものか。6・3制を守るべきだ。
- 小中一貫教育校のデメリットは何か。
- 小中一貫教育校のメリット、デメリットを地域の方々に周知し、啓発をしてはどうか。

◆第9回推進委員会の報告

第9回推進委員会では、「小中一貫教育校実施計画中間のまとめ」、「小中一貫教育資料作成委員会(中間報告)」および平成22年度の検討スケジュールの確認を行いました。

平成22年度は、統一校名（通称名）、統一校歌、統一校章についても検討を開始します。また、学校経営、教育目標、学習支援と指導体制等についてより詳細に検討していきます。なお、統一校名については、公募を実施する方向で検討することになりました。

練馬区立小中一貫教育校推進委員会事務局

練馬区教育委員会 学校教育部 新しい学校づくり担当課・教育指導課
TEL：03-5984-1065 FAX：03-3993-1196
<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/gakko/atarashi/index.html>
※推進委員会の資料・要点記録は、大泉学園桜小学校、大泉学園桜中学校、大泉学園緑小学校および新しい学校づくり担当課（区役所本庁舎12階）で閲覧できます。

推進委員会（第10回）の開催予定

日時：4月14日（水）10時00分～
場所：大泉学園桜中学校（2階 会議室）
案件：統一校名の検討など
※傍聴をご希望の方は、直接会場へお越しください。